刊行物
Publications

HPSCが編集・監修している
学術誌はウェブサイトから

メディカルチェックハンドブック

判型・ページ数：B5・164ページ／定価：3,850円（本体3,500円＋税10%）
発行日：2025年10月22日／発行：文光堂

国立スポーツ科学センターが長年蓄積してきたデータやノウハウを実践的かつコンパクトに凝縮した1冊！

JISS副所長/スポーツ医学研究部門長
中嶋　耕平

国立スポーツ科学センター（JISS）のスポーツ医学研究部門が実施しているアスリート支援の一つにメディカルチェックがあります。メディカルチェックは企業や学校でも健康診断として広く行われていますが、あくまでも一般的な社会生活を送るための指標にとどまると言えます。アスリートが過酷なトレーニングやストレスフルな試合を乗り越えていくための基盤として、自身の健康状態をハイパフォーマンススポーツの視点で客観的に把握し、課題があれば速やかに解決していくことは極めて重要な自己管理体制と言えます。本書は2001年のJISS開所以来実施してきたアスリートのメディカルチェックについて、実際にチェックに関わる各部の専門領域の視点で具体的な実施内容を紹介するとともに、利活用が可能な範囲でデータも収載した実践書となっています。事前準備から評価・フィードバックまでに至る流れをはじめ、各診療科の評価時の注意点や問診票・帳票の見本なども解説しました。全国各地もしくはチーム単位でメディカルチェックを実施、または検討している機関や団体およびそれらに携わる医療者に是非役立てていただきたい一冊です。



アスリート支援ハンドブック

判型・ページ数：B5・152ページ／定価：2,530円（本体2,300円＋税10%）
発行日：2025年4月20日／発行：大修館書店

アスリート支援メソッドのスタンダード!!

JISS副所長/スポーツ科学研究部門 主任研究員
石毛　勇介

本書は国際競技力向上のための“支援”に真正面から取り組んだ、世界初の書籍と言えます。そのため、文章化が困難であることも想定しており、実際、各執筆者も苦労して文章を作成しました。本書が対象とするのは、スポーツ科学系学部・大学の学生、大学院生、地域の医・科学センタースタッフ、その他アスリートの支援に関わるすべての方々です。科学的支援の概要を知っていただくためにも、是非手にとって読んでいただきたいと思います。

JISSが開所以来、継続的に実施し発展させてきたアスリートを対象としたスポーツの医・科学支援に関して、その情報・ノウハウを整理して紹介しています。支援の基本的な流れだけでなく、安全・安心な実施体制の整え方やサポートスタッフの育成に関わる内容も解説しています。アスリート支援に携わる人びとに必携の書です。



『Female Sportナビ』は、女性スポーツへ関わるすべての方のための情報ポータルサイトです。

Female Sportナビ
公式Instagramアカウント

HPSC
公式Xアカウント

HPSCニュースレター 2026 Vol.42 ／ 令和8年3月発行
編集・発行：独立行政法人日本スポーツ振興センター
ハイパフォーマンススポーツセンター

〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/

バックナンバーもご覧いただけます ▶▶▶

JAPAN SPORT COUNCIL

HPSC NEWS LETTER

JAPAN HIGH PERFORMANCE SPORT CENTER NEWS LETTER

2026 VOL. 42

特集

ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス

High Performance Sport Conference 2025

ハイパフォーマンススポーツ研究に基づく
支援のメソッド化に向けて

















TOPICS

- 【出展報告】大阪・関西万博での取組
- JSCと東京科学大学 包括連携協定を締結

ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス

High Performance Sport Conference 2025

ハイパフォーマンススポーツ研究に基づく支援のメソッド化に向けて

ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）は、日本のハイパフォーマンススポーツにおける競技力向上およびそれに寄与する取組の推進に資するため、年１回「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス」を開催し、HPSCにおける各事業の取組・知見の紹介、国内外のハイパフォーマンススポーツに関する情報・先進事例の提供等を行っています。2025年度は、12月10日（水）、11日（木）の2日間にわたって会場で開催しました。

12月10日（水）セッション概要

- **オープニングセッション**　「強化戦略プラン×スポーツ医・科学」
- **Session A**　ハイパフォーマンスディレクターと考える　アスリート育成パスウェイの構築・活用
- **Session B**　ハイパフォーマンスディレクターと考える　競技団体による「女性アスリート支援」
- **Session C**　ハイパフォーマンスディレクターのためのHPSCリカバリー機能見学ツアー
- **Session D**　国際競技力向上に資する研究開発　～先端的スポーツ医・科学研究推進事業における大学の取組～
- **ポスターセッション１**　HPSC支援アワード2024　バドミントン（総合型サポート）サポートチーム
  HPSC研究アワード2024　牧野瑞輝（HPSC/JISSスポーツ科学研究部門 契約研究員）

12月11日（木）セッション概要

- **シンポジウム１**　トータルコンディショニングのための知見共有「ハイパフォーマンススポーツ × 宇宙」
- **シンポジウム２**　トータルコンディショニングのための知見共有「ハイパフォーマンススポーツ × ハイパフォーマンススポーツ」
- **ポスターセッション２**　HPSC発特許紹介
  「スポーツ映像解析を支える技術開発 国立スポーツ科学センター発のカメラキャリブレーション手法」

ご挨拶



ハイパフォーマンススポーツセンター長
国立スポーツ科学センター所長
久木留 毅

このたびは「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2025」にご参加いただき、誠にありがとうございました。『ハイパフォーマンススポーツ研究に基づく支援のメソッド化に向けて』をテーマに開催した本カンファレンスでは、ハイパフォーマンスディレクター（HPD）をはじめとする多くの関係者の皆様にお集まりいただきました。会場では、活発な議論と知見の共有が行われ大変有意義な２日間となりました。１日目は、強化戦略プランやアスリート育成パスウェイ、女性アスリート研究・支援を中心に、スポーツ医・科学のさらなる活用について多角的な視点から検討を深めました。また、HPSCリカバリー機能見学ツアーでは、最新の設備と支援メソッドをご紹介し、科学的根拠に基づくリカバリーの重要性を体感いただきました。2日目のシンポジウムでは、「ハイパフォーマンススポーツ×宇宙」「ハイパフォーマンススポーツ×ハイパフォーマンススポーツ」といったユニークな切り口から、極限環境におけるパフォーマンス支援の共通点や、競技間での知見共有の可能性を探りました。さらに、包括連携協定を締結する大学と研究成果の共有や学生・研究者間の交流を行うなど、本カンファレンスが次世代の人材育成につながる結節点としての役割を果たしました。HPSCが支援するアスリートやチームは、世界の舞台で戦っています。それを支えるスタッフもまた、世界基準での競争に対応する力が求められます。今後とも、世界で戦うための環境づくりを皆様とともに進めてまいります。本カンファレンスが、そうした挑戦を支える一助となれば幸いです。

最後に、本カンファレンスの開催にあたり、ご協賛・ご協力いただいた皆様、関係各所の皆様に心より御礼申し上げます。今後とも、ハイパフォーマンススポーツの発展に向けたご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

協賛企業様

2025年度 トップパートナー

FUJITSU

2025年度 パートナー

Otsuka　株式会社協栄　aim SERVICES　NeuroSpace

オープニングセッション　「強化戦略プラン×スポーツ医・科学」

HIGH PERFORMANCE SPORT CONFERENCE 2025



飯塚 太郎
HPSCハイパフォーマンス戦略部 主幹/JISSスポーツ科学研究部門 主任研究員



窪 康之
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門 副主任研究員



尾崎 宏樹
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門 副主任研究員

本セッションでは、各競技団体（NF）とHPSC医・科学サポートの連携による競技力強化の在り方について、各NFのハイパフォーマンスディレクター（HPD）が集まる中、議論が行われました。
まず、NFが策定する中長期の強化戦略プランを基に、HPSCが選手の発掘・育成・強化に応じた支援と研究を行う方向性が示されました。また、戦略の進捗確認や改善に向けた「協働コンサルテーション」の重要性についても強調されました。
続いて、JISSによる支援の実例として、フィットネスチェックや映像・栄養・心理などの分野別サポート、複数分野が連携する総合型サポートが紹介され、JISSが進める研究と一体となった支援について述べられました。
HPSCには、競技現場のニーズを的確に把握し、限られたリソースを有効に活用する支援体制の構築が求められ、「トータルコンディショニング」の考え方が今後の支援と研究の鍵となる展望が示されました。

Session A　ハイパフォーマンスディレクターと考える　アスリート育成パスウェイの構築・活用



山下 修平
HPSCハイパフォーマンス戦略部開発課 課長/JISSスポーツ科学研究部門 副主任研究員



安井 博志
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会 ハイパフォーマンスディレクター/スポーツクライミング日本代表ヘッドコーチ



魚住 稿
特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 ハイパフォーマンスディレクター



アスリート育成パスウェイ ▶▶▶

本セッションでは、日本版FTEM（Foundation・Talent・Elite・Mastery）モデルに基づく「アスリート育成パスウェイ」の構築と活用について、2つの競技団体による実践事例が紹介されました。発掘から育成、強化、そして世界で勝ち続けるための長期的な視点が共有され、競技特性に応じた柔軟なアプローチの重要性が語られました。
クライミングでは、東京2020大会を契機に未整備だった種目の強化に競技別パスウェイモデルを活用して取り組んできました。指導者育成や拠点整備、トップ選手によるメンタリング制度の導入など、段階的な支援体制の構築に向けた具体的な取組が紹介されました。
また、ブラインドサッカーでは、20年にわたる育成の歩みと、課題や方針の見える化による俯瞰的な整理、地域や教育現場との連携によるアスリート育成パスウェイの構築に向けた取組の広がりが紹介されました。
それぞれの現場で積み重ねられてきた工夫や挑戦は、アスリート育成パスウェイを実効性ある仕組みとして根づかせるための大きなヒントとなります。未来のアスリートを育てるために、今なすべきことを見つめ直す機会となるセッションでした。

Session B　ハイパフォーマンスディレクターと考える　競技団体による「女性アスリート支援」



能瀬 さやか
HPSC/JISSスポーツ医学研究部門 契約研究員・医師



柏木 由美子
HPSC/JISSスポーツ医学研究部門 契約職員・看護師



松浦 由生子
公益財団法人日本水泳連盟 医事委員



大森 典子
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 強化委員会 トレーナー

本セッションでは、「女性アスリート支援の現状と課題」をテーマに、HPSCおよび競技団体の各視点から多角的な発表が行われました。
はじめに、JISSでのメディカルチェック時に看護師が行う面談を通じた支援の取組が紹介され、特に婦人科領域において選手が感じている課題の把握と情報提供の重要性が強調されました。
続いて、日本水泳連盟と日本パラ陸上競技連盟からは、女性アスリートの健康課題に対する啓発活動や支援体制の整備、出産・育児と競技の両立を支える制度設計など、現場での実践的な取組が共有されました。
後半は、支援体制の地域間格差や、指導者への情報提供のあり方、選手自身の気づきを促す支援の工夫など、現場で直面する課題について活発な意見交換が行われました。多様な立場からの声が交わされる中で、支援の質を高めるための連携と継続的な対話の重要性が改めて確認されました。

Session C　ハイパフォーマンスディレクターのためのHPSCリカバリー機能見学ツアー


衣笠 泰介
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
主任研究員


徳武 岳
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
契約研究員



本セッションでは、主に中央競技団体のハイパフォーマンスディレクターを対象に、HPSCのリカバリー関連施設の見学ツアーを実施しました。
見学に先立ち、疲労回復に関わるリカバリーの概念や競技現場での主な課題、科学的根拠に基づくリカバリー戦略についての解説があり、生理学や栄養学、トレーニング科学など多分野の専門家が協働し、トータルコンディショニング支援の一環としてリカバリーを位置づける重要性が示されました。
見学では、コンディショニングスペースやリカバリーエリアなど、HPSCが備える多様なリカバリー機能が紹介され、参加者は施設の活用方法や競技現場での運用イメージについて理解を深めました。
ハイパフォーマンスアスリートには、トレーニング効果を最大化するため、科学的根拠に基づくリカバリー戦略の実践が求められます。本セッションは、競技特性に応じて科学的知見をいかに競技現場に落とし込むかを考える、実践的な学びの機会となりました。
今後も、HPSCでは分野融合型支援の連携を強化するとともに、科学的根拠に基づくプロトコルの整備を進め、より効果的なリカバリー体制の構築に取り組んでいきます。

Session D　国際競技力向上に資する研究開発　～先端的スポーツ医・科学研究推進事業における大学の取組～


岸本 康平
順天堂大学スポーツ健康科学部　助教/スポーツ医学研究室 研究補助員


長野 明紀
立命館大学スポーツ健康科学部　教授


松井 崇
筑波大学体育系 准教授


白井 克佳
HPSC連携・協働推進部 部長

本セッションでは、スポーツ庁「先端的スポーツ医・科学研究推進事業」を受託している順天堂大学・立命館大学・筑波大学（受託3大学）の取組について、各大学から発表がありました。
本事業では、受託3大学がHPSCと連携し、スポーツに関する先端的な研究及び次世代を担う若手研究者の育成を行うこととされています。
受託3大学からは、それぞれが取り組む研究の進捗や成果、課題が報告され、研究成果を競技現場に実装し、国際競技力の向上につなげる観点から、参加者を交えた活発な意見交換が行われました。また、ハイパフォーマンススポーツ研究の更なる推進のみならず、ライフパフォーマンス分野への展開（社会実装）に向けて、大学等との連携の重要性が改めて確認されました。
なお、カンファレンス前日には、受託3大学の学生や若手研究者を対象とした、ワークショップとプレセミナーを開催しました。ワークショップでは、参加者がグループワークを行い、HPSC/JISSにおけるスポーツ医・科学支援に関する理解を深めました。また、プレセミナーでは、受託３大学の学生が研究発表を行い、その成果をいかにして支援に活かすか、という視点で議論を行いました。
HPSCではハイパフォーマンススポーツ・カンファレンスを結節点とした、人材育成のための取組を今後も進めてまいります。

ポスターセッション1　HPSC 支援・研究アワード2024



HPSC研究アワード2024　牧野瑞輝（HPSC/JISSスポーツ科学研究部門契約研究員）



HPSC支援アワード2024　バドミントン（総合型サポート）サポートチーム

2024年度の研究アワード個人の部は、海外学術誌に3本の論文が掲載された牧野瑞輝研究員、グループの部はバイオメカニクスグループが受賞しました。また、支援アワードは「総合型サポート」において多領域や他事業との連携が機能したバドミントンサポートチームが受賞しています。本カンファレンスでは、ポスターセッションにてそれぞれの取組内容を紹介しました。

シンポジウム1　トータルコンディショニングのための知見共有「ハイパフォーマンススポーツ×宇宙」


久木留 毅
ハイパフォーマンススポーツセンター長/JISS所長


室伏 広治
東京科学大学教授・副学長（スポーツ科学担当）


速水 聰
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙飛行士運用技術ユニット/宇宙飛行士健康管理グループ主任医長/フライトサージャン


笹原 信一朗
筑波大学医学医療系　生命医科学域 産業精神医学・宇宙医学 教授


半谷 美夏
HPSC/JISSスポーツ医学研究部門
主幹・主任研究員

本シンポジウムでは、有人宇宙活動とハイパフォーマンススポーツにおける多職種連携やトータルコンディショニングに関係する研究成果や実践例を共有し、今後の連携可能性や相互補完できる知見について探索・検討されました。
基調講演および招待講演では、「一器多様」「パラスポーツと宇宙の可能性」など新たな視点がもたらされ、宇宙分野からはフライトサージャンから見る「宇宙医学運用とトータルコンディショニングの共通点・相違点」や極限環境下でのストレス対処力としての「Sense of Coherence（首尾一貫感覚）」の概念等について紹介されました。HPSCからは国際総合競技大会におけるトータルコンディショニングサポートの事例が紹介されました。
続くパネルディスカッションでは、「スポーツ×宇宙」という分野横断の協働がもたらす未来像や可能性について活発な議論が行われました。
アスリートと宇宙飛行士の支援に共通する課題として、多職種連携における共通言語の必要性、特殊環境（閉鎖・半閉鎖）、極限状態でのメンタルケア、人間関係の緊張への対応、エキスパート間の連携を調整する人材（ジェネラリスト等）の必要性などが挙げられ、トータルコンディショニングを推進するうえで実践的かつ先進的な視点が共有されました。
議論を通じて、スポーツと宇宙という一見全く異なる分野が多くの共通課題を抱えており、互いの知見の共有がアスリートのパフォーマンス発揮のための支援の質の向上、そして宇宙飛行士の健康管理や宇宙環境における長期滞在ミッションの成功に貢献しうるのではないかという可能性も示されました。
本シンポジウムは、トータルコンディショニングの概念や実践が今後のアスリートと宇宙飛行士の効果的な支援に寄与することを示唆する内容となりました。

シンポジウム2　トータルコンディショニングのための知見共有「ハイパフォーマンススポーツ×ハイパフォーマンススポーツ」


清水 和弘
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員


永友 洋司
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 代表強化部 I5人制男子日本代表チームディレクター


ミゲル・トーレス
公益財団法人日本自転車競技連盟 ハイパフォーマンスセンターオブジャパンサイクリング（HPCJC）ディレクター


平松 竜司
一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 ハイパフォーマンスディレクター/東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授


尾崎 宏樹
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員

本シンポジウムでは、HPSCが提唱する「トータルコンディショニング」を共通概念とし、ラグビー・自転車・パラ陸上における競技特性に応じたトータルコンディショニングの取組について共有されました。
「アスリートにおけるトータルコンディショニング」とは「アスリートの効果的なコンディショニングのために各エクスパートが協力・協調して連携を組み包括的な活動を行うこと」です。その実践には、①パフォーマンスファースト（パフォーマンスの最大化に特化した議論と対応）、②関係者それぞれが関連諸分野に理解を持つこと、③関係者の専門性と役割の整理、④円滑なコミュニケーションと情報共有の基盤の確立、⑤トータルコンディショニングを中心的に推進する人材（ジェネラリスト）が鍵となります。
各競技における取組の紹介とパネルディスカッションを通じて、短期・中期・長期の計画のもとシステム化された支援による戦略的なコンディショニングの重要性が示されました。さまざまな分野の情報集約による意思決定には、関係者間における密なコミュニケーションが必須であり、それを実現させる工夫（共通目標の設定、情報の可視化、有効なツールの活用など）やジェネラリストの必要性についても言及されました。そして、アスリートがモチベーションと知識・技能を持ち積極的にセルフコンディショニングが実践できる文化と環境づくりの重要性と展望が述べられました。HPSCとの協働により、競技横断で活用できる知見や支援モデルを整備していく重要性が確認され、「トータルコンディショニング」がその共通概念として機能することへの期待も示されました。

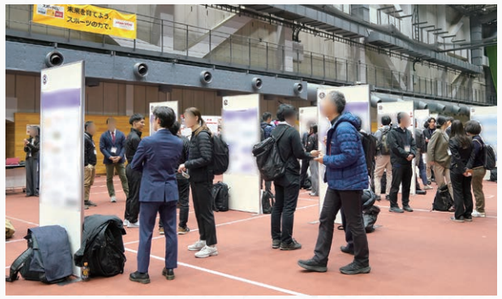
【ポジションペーパーの策定】
HPSCにおけるJISSを中心とした国際競技力向上のための支援・研究に関する取組及び「Total Conditioning Research Project」の成果等を踏まえ、HPSCが提唱する「アスリートにおけるトータルコンディショニング」の概念とその推進方針を示すため、「アスリートにおけるトータルコンディショニングに関するポジションペーパー」を策定しました。

アスリートにおけるトータルコンディショニングに関するポジションペーパー



サブ会場

サブ会場では、HPSC支援・研究アワード受賞者やHPSCの研究員、HPSCと連携している大学の教員および学生らによる多様なポスター発表（40演題）が行われました。また、HPSCをより知っていただくためのHPSC事業に関する展示5件、HPSC発特許の紹介1件に加え、協賛企業による展示1件も実施しました。飲食スペースも併設され、カンファレンス参加者と研究員や教員・学生らが活発に意見交換し、ネットワーキングが大いに盛り上がりました。こうした交流を通じて、研究・支援に関するニーズ・シーズへの理解が醸成され、具体的な連携につながることを期待する声も聞かれました。このように交流と学びの機会を創出し、ハイパフォーマンススポーツ研究・支援の未来を担う人材育成の場としても大きな役割を果たしました。

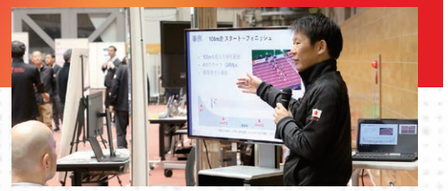


ポスターセッション2　HPSC発特許紹介「スポーツ映像解析を支える技術開発 国立スポーツ科学センター発のカメラキャリブレーション手法」



松林 武生
HPSC/JISSスポーツ科学研究部門
副主任研究員





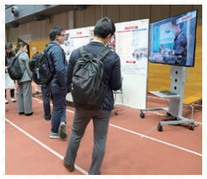
HPSCでは、研究員の研究・支援活動から得られた知見を広く社会に還元することを目指し、保有する知的財産の利活用にも取り組んでいます。今回のカンファレンスでは、HPSC初の試みとして、2025年に特許として設定登録された松林武生研究員の標記技術（特許第7628739号）についてのミニセミナーを行いました。映像解析において、必須の下準備ともいうべきカメラキャリブレーションは非常に手間がかかる作業であり、これまでは競技中の一局面だけを切り取った画角にて行うことが通常でした。この特許技術を用いると、従来は実現が難しかった陸上競技トラック全体をカバーするような広範囲の動作解析も、映像担当者の負担を軽減しつつ行うことが可能となります。

今後この技術の現場実装が進めば、スポーツのより広範な局面からデータを抽出していくことが可能となり、科学的エビデンスに基づいた指導やトレーニングが、あらゆる競技レベルで促進されることが期待されます。会場ではNFの強化ご担当者に加え、大学・企業の関係者など、本特許を用いた研究・開発に関心をお持ちの参加者とも、ミニセミナーならではの近距離で意見交換を行うことができました。

DiTS 2025　ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2025にブース初出展

DiTS（Digital imaging Technology for Sports）は、オリンピック・パラリンピック競技の中央競技団体における映像・IT人材育成を目的とした講習会として展開してきました。この度、より幅広い競技団体や地域スポーツ関係者との連携を視野に、「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2025」に初めてブースを出展しました。

メイン会場のセッション終了後、来場者がサブ会場に移動すると、DiTSブースにも多くの方々が訪れました。これまで受講経験のなかった中央競技団体のみならず、地方のスポーツ関係者や専門学校関係者など、多様な立場から関心を寄せていただきました。





ブースでは、「導入しやすいシステムやソフトを知りたい」「予算が限られた競技でも使える映像技術やプログラミング技術を学びたい」「強化活動に映像活用を取り入れたい」「以前から受講を検討していた」など、多方面からの声が寄せられました。広く様々なカテゴリーの競技現場において、映像・IT活用の必要性が高まっていることを実感する機会となりました。

DiTSでは、映像の基礎から応用、プログラミングまで、スポーツ現場で役立つスキルを段階的に学べる講座を提供しています。今後はオリンピック・パラリンピック競技に限らず、地域スポーツや多様な競技団体との連携を進め、現場での活用機会をさらに広げていきます。

2026年度もDiTS講習会を定期的に開催します。より多くのスポーツ現場の皆様とつながり、支援の輪を広げていければ幸いです。

※DiTSに関するお問い合わせはこちらまで
▶dits-contact@jpnsport.go.jp

次回のカンファレンスの日程 ▸▸▸ 2026年11月28日（土）～11月29日（日）開催予定!!

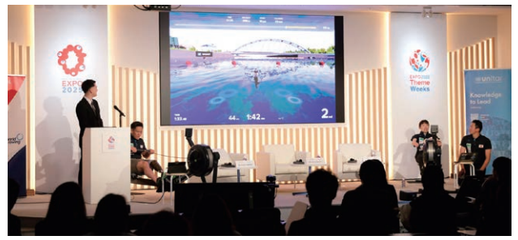
【出展報告】大阪・関西万博での取組

HPSCは、2025年大阪・関西万博を舞台に、スポーツの力を活かした社会課題解決の可能性を広く発信する取組を行いました。ここでは独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）と国連訓練調査研究所（UNITAR）による特別プログラムと、HPSCブース出展の様子をご報告します。

「開発と平和のためのスポーツの推進」特別プログラムを実施（2025年5月4日）

JSCはUNITARと共に、大阪・関西万博の機会を通じて開発と平和分野におけるスポーツの推進に取り組みました。国連総会決議でも繰り返し採択されてきたように、スポーツは持続可能な開発を促進する手段であるとされていますが、現場での適用には課題も多く存在します。そのような中JSCとUNITARは、環境・平和・社会的包摂・ジェンダー・教育分野におけるスポーツの役割をより良く理解し、実践に活かすことを目的に、5月4日万博会場テーマウィークスタジオにて特別プログラムを実施しました。

プログラムではバーチャルローイング体験やパラアスリートによるデモンストレーション、国内外の専門家による講演を通じてスポーツの可能性を体感的かつ理論的に学ぶ機会を提供し、スポーツを通じた社会課題の解決へ向けた情報発信・能力育成を行いました。78名の参加者からは「バーチャルローイングはソーシャルインクルージョンの入口になり得る」、「講演で提供された調査結果や事例を自身の生活・事業・研究にぜひ取り入れたい」といったポジティブな反応がありました。



「Sports Future Lab」HPSCブースを出展（2025年9月3日～8日）

2025年9月3日（水）から8日（月）までの6日間、大阪・関西万博においてスポーツ庁が主催する「Sports Future Lab ～スポーツがつくる未来～」が開催されました。HPSCは本イベントにて、最新のAI技術と実際のフィジカル体験を融合させた体験型展示「ミライノカーリング」およびHPSCの活動を紹介するブースを出展しました。





「ミライノカーリング」では、トップアスリートを支援する最先端AIが戦況をリアルタイムに分析し、プレイヤーにアドバイスを送る仕組みを導入。来場者はAIと対戦しながら、戦略性と身体感覚が融合した新しいスポーツ体験を楽しんでいただきました。体験者からは、「コンピュータを相手にどう勝つか考えるのが面白い」といった戦略面への関心や、「カーリングがこれほど体力を使うものだと思わなかった」といった競技特性への理解を深める声が多く寄せられました。

会期中、HPSCブースには延べ1,700名を超える方々にご来場いただきました。老若男女を問わず、競技経験のない方々にもテクノロジーを通じたスポーツの新たな楽しみ方を提示できたことは、今後のスポーツ振興や医・科学支援の可能性を広げる大きな成果となりました。

ご来場いただいた皆様、そして出展・運営にご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。HPSCは今後も、ハイパフォーマンス領域で得た知見を社会へ還元する取組を進めてまいります。

JSCと東京科学大学 包括連携協定を締結



JSCと国立大学法人東京科学大学は、スポーツの推進と理工学・医歯学の発展、そして未来を担う人材育成を目指し、包括連携協定を締結しました。2025年7月17日（木）に国立競技場で行われた調印式には、JSCの芦立理事長、東京科学大学の大竹理事長らが出席。新たなパートナーシップがスタートしました。本協定により、JSC（主にHPSC）と東京科学大学は、理工学・医歯学やスポーツ医・科学研究での連携、施設・設備の相互活用などをこれまで以上に推進していきます。国立スポーツ科学センター（JISS）を中心とした研究交流や人事交流を通じて、アスリートへの支援を充実させるとともに、学術分野のさらなる発展にもつなげていく考えです。JSCは今後も、我が国のスポーツ推進に向けた連携・協働を図り、大学等の関係機関と共に、スポーツを通じた社会貢献や人材育成に取り組んでまいります。